

改訂箇所比較表

競技会開催について

2021年1月15日改訂	2022年1月6日改訂
<p>大会主催者はロードレース開催の前提条件と基本注意事項を満たし、配慮事項を参照の上、開催可否の検討及び開催の準備に取り掛かる。</p>	<p>本ガイダンスは、ロードレース開催に向けた留意点をまとめた文書である。大会主催者は本ガイダンスに記載された事項を参照の上、新型コロナウイルス感染症対策を検討・実施すること。大会主催者は開催地の新型コロナウイルスの感染状況および政府・自治体からの要請等により、感染症対策の強化・緩和など柔軟な対応をしていくこと。最終的な開催の可否判断は、主催者の責任である。</p>
<p>1. 緊急事態宣言が解除されていること。</p> <p>①移動制限の解除。</p> <p>②不要不急の外出自粛の解除。</p> <p>③店舗営業自粛の解除。</p> <p>④学校において部活動が認められている。(※高校生以下が出場するロードレースの場合)</p> <p>※ただし、緊急事態宣言発出中であっても、緊急事態宣言の要請内容にイベント開催の中止もしくは自粛が含まれていない場合は、競技会主催者は競技会の開催を検討してもよい。開催にあたっては、開催地の自治体等と感染防止に関する諸事項について十分に協議した上で、政府や開催地の自治体等から示された条件等を踏まえ、感染リスクをできる限り軽減させる策を講じること。</p>	<p>1. 緊急事態宣言・まん延防止等重点措置等において課される行動制限下における大会開催について</p> <p>※緊急事態宣言・まん延防止等重点措置等において課される行動制限下における大会開催については、2021年11月19日に発表されたワクチン・検査パッケージ制度の適用について安全な大会運営の可否を検討すること。</p> <p>※「ワクチン・検査パッケージ制度」について（内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室）</p>
<p>3. 大会開催都市もしくは地域において、新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。緊急時の 後方支援病院（※1）がある。</p>	<p>3. 大会開催都市もしくは地域の医療のひっ迫状況を保健所に確認の上、新型コロナウイルス感染症について保健所へ事前に相談しておくこと。</p>
<p>・ソーシャルディスタンスを確保した会場計画（できるだけ 2m 最低 1m を目安に）</p>	<p>・フィジカルディスタンスを確保した会場計画</p> <p>スタートエリアにおいてはマスク着用の徹底と会話をしない注意喚起を徹底すること。</p> <p>スタート直前(1分前など)までマスクを着用、外したマスクは選手が管理（持</p>

	って走るなど) する。
⑦ 給水所にスポンジは使用しない。	⑥ スポンジを使用する場合は、給水所におけるペットボトルと同様の提供を行う。スポンジは選手自身が指定の場所に捨てられるよう、主催者は大きなゴミ箱などを準備する。
<input type="checkbox"/> (5) ゴミの廃棄 ① 参加ランナー各自で管理するなど、極力ゴミが出ないような運営を検討する。競技施設内はゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスする。	(5) ゴミの廃棄 ① 参加ランナー各自で管理するなど、極力ゴミが出ないような運営を検討する。ゴミは各自持ち帰るように事前に周知、アナウンスする。ゴミが散らからないよう大きなゴミ箱の設置場所などを検討する。
(1) 大会主催者(公認大会)は大会終了後1ヶ月以内に以下の事項を日本陸連(info@jaaf-runlink.jp)にメールにて提出すること。(書式自由) ① 感染症予防対策マニュアル 8 ② 参加した医療関係者数(医師/保健師/看護師) ③ 参加者数、競技役員数 ④ 健康状態の管理状況(ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間) ⑤ 感染者発生状況(ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間)	感染報告があった場合、主催者は日本陸上競技連盟(電話番号:050-1746-6100)に報告する。その際に、参加者数、競技役員数、感染者発生状況(ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間)などについても報告する。